



Winter 12-12-2023

福音を分かち合う1.1

Yoshihiko Ariizumi
yoshi.ariizumi@gmail.com

Follow this and additional works at: <https://scholarsarchive.byu.edu/sproficiency>



Part of the [Education Commons](#)

Recommended Citation

Ariizumi, Yoshihiko, "福音を分かち合う1.1" (2023). *Spiritual Proficiency*. 25.
<https://scholarsarchive.byu.edu/sproficiency/25>

This Article is brought to you for free and open access by the ANEL at BYU ScholarsArchive. It has been accepted for inclusion in *Spiritual Proficiency* by an authorized administrator of BYU ScholarsArchive. For more information, please contact ellen_amatangelo@byu.edu.

もっと自然で積極的に福音を分かち合うために（1）

有泉芳彦

yoshi.ariizumi@gmail.com

2023年10月

はじめに

わたしが長年開発してきたユーピメソッド¹⁾を使って、伝道の業にチャレンジを始めてみました。最初は、どんなことが起こるのか見当もつきませんでした。意外な方向にたくさんの道が開けようとしているので、まだ、やり始めて1週間も経っていないのですが、これまでの様々な経験なども参考にしながら、理想的に、しかも無理のない方法で、コツコツと楽しく福音を伝える方法がどんなものか、読者の皆さんと一緒に探してみたいと思います。すごい、ワクワク感で始めることができるかもしれませんよ。



出典: <https://personalgympono.jp/blog/detail/20220602142551/>

先日、わたしの日本で通っているワード部の中で、ほかの教会員の人たちと話していて感じたのは、前の自分もそうでしたが、これから出会うかもしれない人々に福音を伝えることを考えると、「荷が重い」「敷居が高い」「どこから始めていいのかわからない」など、ともすると二の足を踏んでしまう傾向がだれにもあることです。伝道に成功している人たちの話を聞いても、「自分はそういうタイプじゃないからな」とか「内向的な自分で、仕事柄というか、今の自分の生活では、あまり人に会うことがないし、伝道のチャンスはほとんどない」とか思っていないですか？

実は、わたしも以上のような思いが浮かんでくることって、けっこう頻繁にある方なのです。しかし、今、まさにそのような思いが崩れかけていて、目の前がぱっと開けてきたので、お伝えしたいと思い書いています。

先日の総大会の説教集を復習しているときに、今もっと積極的に福音を伝えるようになりたい、できればラズバンド使徒の勤めるようにシニア宣教師として奉仕したいというような望みも起こってくるのですが、一方、何分にも高齢で、夫婦ともがんの手術を受けていて、体力に自信のないわたしたちには、フルタイムとして働くことはとてもできないと思われるのです。

意外と機会はいっぱい転がっているのかもしれない

しかし、自分にできることはないかと、積極的に考え、祈り求めていると、何日か考え続けているうちに、考えがまとまってきて、次ようなポイントが入っている祈りを毎朝始めたのです。

- 1) 今日1日を神様の御手に使われて、福音を伝える機会につながるような出会いがあるように、自分を奉献します。
- 2) わたしが1日の活動の中で、導かれてだれか神様が備えてくださっている人に巡り合えますように。あるいは、その人がわたしのところに導かれてきますように。
- 3) その出会いがあったときに、その人がわたしの会うべき人だと認められるように。
- 4) その人に対して、みたまとともに考え、語ることができ、ふさわしく行動できますように。
- 5) 「神様とのパートナーシップ」²⁾ を使って、その後の接し方について導きを受け、1つ1つを御心のままに行動に移すことができますように。



出典:

<https://www.gettyimages.co.jp/detail/%E5%86%99%E7%9C%9F/commuter-waiting-at-tram-station-during-pandemic-%E3%83%AD%E3%82%A4%E3%83%A4%E3%83%AA%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%95%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%A4%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%82%B8/1301774498?adppopup=true>

そもそも、こういう祈りを考え付いたこと自体、神様の導きがあったに違いありません。自分の力ではないのです。それに、総大会などにおける話者や多くの人たちの経験について聞いた、証を耳にしてきたことがこのように考える準備になっていたことは確かです。実は、以上の5つのポイントを部分的には、以前にも祈ったことがあったかもしれませんが、このように明確にして書き留め、それを意識して毎日の祈りに取り入れようとしたことは、今まで一度もありませんでした。このような展開になったのは「福音を伝える」ことをユープのプロジェクトとして決意し、記録をつけながら始めたことに深くかかわっていると思います。

さて、これは、ほんの数日前に始まったことなのですが、一体どのような変化が起こったのでしょうか。まさに驚くことが起こりつつあります。

アメリカに根拠地をおくわたしにとって、日本に来れるのは毎年2～3か月だけです。昨年、東京の郊外に小さなアパートを借りて、秋に2か月住み始めましたが、近所を歩き回っていた時、公園でラジオ体操を毎日やっているグループを見つけました。30～40人の人が集ま

り、熱心に体操してました。そこで、恥ずかしそうに外回りから見ながら、少し自分も体を一緒に動かしていると、みなさん親切に仲間に入れてくれました。そこで定期的に参加し、できるだけ、頑張っで参加している人たちの名前を覚えようとして、だんだん話しかけてみることにしました。また、今年、戻ってきて、ラジオ体操に加わると、去年からの知り合いがまだ覚えていてくれて、特別な老人クラブにも誘われ、参加すると、その片づけをわたしも手伝っていたのですが、いっしょにやっているリーダーの一人と語る機会があり、その人が、わたしがアメリカのユタ州に住んでいると言うと、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるかと尋ねたので、教会の話が始まってしまいました。その活動の行われた公民館を離れ、それぞれの家に向かいながら途中も少し話し続け、教会の教えにつても触れると、なんと、関西に住んでいる教会員とラインでつながっていて、しかも、東京神殿のオープンハウスにも誘われて行ってきたということでした。それがきっかけで、しばらくして、モルモン書を渡し、読んでもらえることになりました。今、そのフォローアップも継続中です。これは、まあ、偶然というか、特別に祈って始めたことではありませんでした。

まあ、そういう土台があったのですが、前記の5つのポイントで祈り始めて、まったく新しい道が開けてきました。今週、いつものように朝祈って、ラジオ体操に行きました。すると、前回、たまたまわたしの方からちょっと声をかけていたのだと思いますが、比較的新顔の人が、その朝は向こうの方から話しかけてくれました。印象はとてもフレンドリーで、やや驚きました。それで、わたしもその人のことをもっと知った方がいいと考え、ラジオ体操の後で、少し残っていることにしました。彼は、たくさんのことを教えてくれ、わたしも自分のことをさらけ出して、いろいろないいことも悪いことも、飾り気なく話したのです。20分ぐらい話したでしょうか。自宅に戻ってきて、上の5番目のポイントに従い、早速、神様にそのAさんのことを報告しました。すると、その祈りの中で、その人がわたしがその日に会うべき人であったと、教えていただいて、感動のあまり、涙が出てくるほどでした。

これまで、教会員としての数十年間で、このように具体的に祈り、こんなにも早くそういう出会いがめぐってくることに驚きました。そして、報告の祈りの成果でもあるかもしれませんが、どのような方略でこれから進んでいくべきかが見えてきました。その方は、高齢者の山歩きの愛好家のグループと行動しています。毎月、例会として近場の高くない山に挑戦しているようでした。そういうことがだんだんわかってきたので、そのグループに参加させてもらい、一緒に歩きながら、いろいろなことをゆっくり話しているうちに、福音についても話すチャンスも出てくることはごく自然なことだと思われました。もちろん、そんなことにも時間や労力が要ることですから、家内とも相談して、ほかの活動とも調整しながら一步一步進めなければなりません。山登りに興味があるかといえば、特にあるわけではないのですが、福音を宣べ伝える機会にもなると思えば、良いことだと感じています。そんなことについても、神様と相談して、神様のご計画とうまく調和して進められるかを確認します。神様の方法に頼れば、必ず長い目で自分にも祝福がいろいろな方法で戻ってくるということがわかっているからです。

では、その後にこのような祈りを毎日続けた結果が、またそれに伴ういろいろな経験がどのように起こっていくか、次回のレポートにまとめたいと思います。予定では、来年の1月の後半くらいです。それでは、今の段階で福音を伝えるためにいろいろ浮かんできたアイデアがありますので、どのような工夫ができるのかについて、自分自身の経験や、いろいろな人たちの話してくれたことなどを参考に大事なポイントをまとめてみます。

敷居が高い？



出典: <https://domani.shogakukan.co.jp/680490>

前にも述べましたが、わたしたちは「福音を伝える」と考えた時、かなり特別な努力と特別なめぐり逢いがあって初めてできることみたいなイメージを持っていませんか？わたしにとって長い間かかってだんだん分かってきたことですが、種をまくというか、下地作りというか、結果として伝道につながることは身の周りにどこにでもあって、それは福音を宣べ伝えることのしっかりした一部になっているのだと思います。そして、そのような限りなく小さな配慮や行為が、実は何か大切な一歩を進めることになっていることをしっかり意識することができる、この神様の業に携わっているという達成感があり、もっとやってみたくなると感じます。神様は、そのように小さな努力をしているわたしたちのことをしっかりご覧になっておられ、欠かさずわたしたちに祝福を送ってくださいます。少なくとも、御霊によって平安がもたらされます。では、敷居をグンと低くするため、どのような活動を心がけたらよいのでしょうか。まずは、ちょっと列挙してみます。

- 1) 積極的に知り合いになる。その人について関心をもって話す。
- 2) 周りの人のニーズに注意を払う。そして、自分ができることがあれば、進んで何かを行う。
- 3) 日頃会う人（家族、友人、学校や職場で会う人たちとか）や初対面の人に対しても、心の中で祈り、その人たちの祝福を願う。神権者なら、神権によって祝福する（ふつうは心の中で）。
- 4) 場所とか組織とかを特別に祝福する祈りを心の中で捧げる、ないしは神権によっておなじように祝福する。
- 5) 自分の主な活動の中に、奉仕の要素を少しだけ入れる。

では、それぞれについて少しだけ説明してみます。

1) 積極的に知り合いとなる

もともと家に閉じこもって何かをやっていたら大変満足している人間の自分が、教会に入り、また仕事の関係で対外的な交渉などをたくさん手掛けている中で、だんだん周りの人たちに接することに慣れてきました。それが頂点に達したのは、BYUで働く機会を得たことです。ちょっと極端ではありますが、ランチにキャンパスのカフェテリアに行くときには、食べ物を

買ってテーブルを探すときには、これから食べ始めようとしている人のそばに座らせてもらいます。そして、その人、たいてい学生ですが、勉強していることや活動していることなどについていろいろ教えてもらいます。また、自分の学んだことや考えていることなども積極的に話します。そういうことはもう習慣となっているので、日本に来て、できるだけチャンスをつかんで話しかけるようにしています。日本の文化って初対面の人にあまり話しかけたり、あいさつしないことが普通ですよ。しかし、やってみてわかったのですが、いいタイミングで、状況を踏まえて、低姿勢で接しますと、けっこう話が盛り上がってくることもあります。最初からうまくできなくとも、ダメもとで、やっているうちにコツがだんだんわかってくるかもしれません。相手がどんなことに興味を持っているかがわかれば、福音について話すタイミングが訪れた時、相手に合った話し方ができると思います。

2) 周りの人のニーズに注意を払う

「自己中」の傾向が強い自分には苦手な分野です。でも、上記の祈りを毎朝捧げていると、自分のような不器用な人間でも少しは人様の役に立てるようなこともあるようです。スマホをのぞき込むような時間を少しだけ周りの人たちに向け、何を必要としているのか、何か困ったことはないかを心に問いかけてみることにチャレンジしてみたいと思います。

3) 祈りと神権により、人々を祝福する

これは、相手の状況とか、自分のタイミングとかにまったく関係なくいつでも、どこでもできますね。しかし、これをやってみると分かりますが、とても素晴らしい結果になることが多いです。まず、自分の中にその人に対する優しい平安な気持ちがあって、逆にその人から助けられることも多いです。これに関して特別な経験を1つの記事にまとめましたが、それについてもう少し細かく項目の4番目で説明します。こんな機会は、あらゆるところにたくさん隠れています。配達人が家を訪れてくれますね。役所や銀行など、いろいろな手続きをしたりするときには会う人々がいまいます。交通機関を使うときも、一緒にバスを待つ人や、レジで一緒に並んでいる人、店員の人たちなど限りなくその範囲は広がっていきます。

4) 場所や組織を祝福する

ずっと以前のことで、東京神殿の別館で一緒に泊まった北海道から来たある兄弟と話していた時、その兄弟は、毎日、職場のことすべて、生産から配送などについて具体的に、神権の力によって祝福しているというのでした。それから何十年も経ってですが、ふとそのことを思い出して、BYUのキャンパスを祝福し始めたのです。たいてい、キャンパスを歩きながら、自分のオフィスに向かっているときに、心の中でメルキゼデク神権によってキャンパスが優れた教育と研究の実践で世界の中で顕著な存在になり世の光となるように毎回祝福していました。心の中で起こっていることですから、何も見るような変化は起きませんよね。ところがです。数か月後に、奇跡とも思われる出来事が起こったのです。次の記事³⁾にそのことが書かれているので、参考にしてください。

5) 自分のルーチンの活動の中に奉仕の要素をちょっとだけ入れる

一日の生活の中で、やるべきこと、やりたいこと、仕事上での義務など、とにかく一日の大半の時間を占めている活動がありますね。それを100%そのことだけをやるのではなく、ほんの3%とかでもいいので、周りの人々のために奉仕する要素を加えて、息抜き代わりにやってみるのです。けっこうおもしろい経験です。だれが見ていなくとも、コツコツと力まず、気軽

な気持ちでやるのがポイントです。例えば、わたしは早朝のテニスによく加わっていますが、ちょっと早めにコートに行き、ウォーミングアップのついでに、周りにあるごみなどを拾い集めます。どんな効果があるのか？正直言ってわかりません。でも、自分の心の中に何かが起こっていることは確かです。周りの人たちへの親切な気持ち、もっと言えば、愛がささやかながらも増しているのかもしれない。それは、福音を宣べ伝える時のベースになるトーンを作ってくれるものになると期待しています。



以上で、「高い敷居」を乗り越え、日々の些細な活動を福音を宣べ伝えるきっかけになるために使うためのヒントをいくつか挙げてみました。では、来年の1月の後半、上記のような日々の祈りがどのような奇跡の扉を開いてくれたか、報告することを楽しみにしています。

注

1) わたしの開発してきた、どんな能力を伸ばすのにも使える、汎用性のあるメソッドなので、以前には「知源育」と名付けていたのですが、もっと馴染みやすいようにUniversal Performance Improvementというこのメソッドの性質を表す言葉を略してUPIつまり、ユーピーと呼んでいます。次のリンクで、このメソッドの要点を学ぶことができますし、もっと詳しい資料が欲しい人は是非わたしにコンタクトしてください。

<https://scholarsarchive.byu.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1057&context=ltroptimization>

2) これは、とても短い記事ですが、読んでいただくと、簡単に取り入れる方法がわかると思います。

<https://scholarsarchive.byu.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1017&context=sproficiency>

3) 「BYUキャンパスでの霊的な旅路」というタイトルの記事です。極めて世俗的な考えで始めていた自分が、学生やそのほかの人たちと接する中でいろいろなスピリチュアルなことに目を開かれていくプロセスが述べられています。特にハイライトになったのが、キャンパスを神権の力で祝福し続けた結果、ある日突然起こった奇跡の経験です。

<https://scholarsarchive.byu.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1002&context=sproficiency>